



Title	[紹介]総合雑誌『北大季刊』全31号(1951-1969年)総目次
Author(s)	出村, 文理//解題
Citation	北海道大学大学文書館年報, 9, 71-108
Issue Date	2014-03-31
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/56500">http://hdl.handle.net/2115/56500</a>
Type	bulletin (other)
File Information	ARHUA9_005.pdf



[Instructions for use](#)

< 紹 介 >

総合雑誌『北大季刊』全31号（1951-1969年）総目次

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁	
<b>【創刊号】</b> 発行所：北大季刊刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：風巻景次郎 発行日：1951年10月1日 判・頁：A 5・138頁 印刷所：中西写真製版印刷所 定価：50円 売捌元：北方出版社	島善鄰	北大季刊の創刊に寄す		
	中谷宇吉郎	現代の大学生	1	
	内田亨	平凡な私生活	10	
			北大季刊編集規定	17
	窪田薫	フランソワ・ヴィヨンー死に憑かれた魂ー	18	
	猪俣庄八	放浪する文学の鬼ー曹霑の伝記的素描ー	29	
	河邨文一郎	沼ーAに。(詩)	36	
	伊藤秀五郎	鳶について (詩)	38	
	松浦一	戒名 (楡園随想)	40	
	藤山英寿	老眼 (楡園随想)	42	
	松田武雄	社交舞踏と所謂ダンス (楡園随想)	44	
	山本周助	映画評論・回想形式に就て	47	
	翁国灶*	日本留学の夢と現実	49	
			原稿募集要項	54
	吉田順五	防霧林	55	
	風巻景次郎	小羊圏の周辺ー老舎の「四世同堂」ー	60	
	井手貢夫	ヘルマン・ヘッセの最近の手紙から	67	
			執筆者紹介	74
	伊藤俊夫	放心他二篇 (詩)	75	
	高本研一	エピタラム 他一篇 (詩)	78	
	細谷貞雄	正義と技術ー『二十五時』所見ー	80	
	渡辺侃	大学の自由とコミニズムー米国の場合ー	90	
	森豊*	マックス・ウエーバーについてーその生涯とその意味ー	93	
	井上貞行*	月夜の電柱碍子 (創作)	98	
	早川三代治	ホロロ原野のカイン (創作)	111	
	和田謹吾	三木家の人々 (創作)	121	
			応募原稿短評	137
		編集後記	138	
<b>【第2号】</b> 発行所：北大季刊刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：野田寿雄 発行日：1952年4月15日	武田勝男	鼠と癌	2	
	村田豊雄	雪・製紙工場他 (短歌)	9	
	小林謙一*	「ベネローベの機織」の終焉ーその哲学的基調ー	10	
			原稿募集要項	17

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
判・頁：A 5・172頁 印刷所：中西写真製版印刷所 定価：50円 売捌元：北方出版社 特集：学生は何を思い何を感 じたか 特集：行動と責任	高倉新一郎	千島	18
	犬飼哲夫	熊と原始文化	24
		執筆者紹介	27
	柏倉俊三	摩周湖（詩）	28
	千葉宣一*	不在時間（詩）	30
	窪田薫	パスカル覚書	32
	栃内吉彦	随想（楡園随想）	38
	今田敬一	私と絵（楡園随想）	40
	高山坦三	文化夫人（楡園随想）	43
	伊藤正春	戦後日本の大学生とユネスコ運動	45
	Hermann Hecker	Heimaterinnerungen	53
	ヘルマン・ヘッカー（井手貢夫訳）	ふるさとの思い出	59
	学生十名	特集学生は何を思い何を感じているか（学生アンケート）	63
	岡林俊雄*	私の場合－私は何を思い、何を感じているか－（学生アンケート）	76
	山根徹之介*	常識－私は何を思ひ、何を感じてゐるか－（学生アンケート）	79
	今堀克巳	音楽と人間	84
		北大季刊編集規定	92
	林善茂	エカシ サノウタ（短歌）	93
	阿部保	雪の噴泉（詩）	94
	木村咲也*	秋の飾画（詩）	96
	三浦栄*	春のおもひ（詩）	98
	田中良久	月の大きさ	100
	内田亨	（特集行動と責任）	107
	市川純彦	知識人の責任（特集 行動と責任）	109
	牛沢信人	行動と責任（特集 行動と責任）	112
	佐藤正一	学生の行動と責任（特集 行動と責任）	113
	尾形典男	学生の行動と責任（特集 行動と責任）	116
	岡不二太郎	行動と責任（特集 行動と責任）	119
	津金充*	十字街（創作）	124
	可知春於	街の女三題（創作）	127
	本山節弥*	共喰い（創作）	139
	山崎侑*	死人の部屋－或る形と色彩へ……（創作）	146
	服部一良	大いなる舞曲－三場（戯曲）	154
	読者欄開設について	170	

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
	T生	応募原稿私感	170
		編集後記	171
<b>【第3号】</b> 発行所：北大季刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：野田寿雄 発行日：1952年12月1日 判・頁：A 5・128頁 印刷所：中西写真製版印刷所 定価：50円 売捌元：北方出版社	鳥山成人	平和論の現実的基礎	2
	松田武雄	欧米巡歴の印象	14
	小林謙一*	中間階級の立場	22
	渡辺侃	ソーンステイン・ヴェブレン―主としてマックス・ラーナー編「携帯叢書ヴェブレン」紐育ヴァイキング―九四八による―	31
	細谷勇輔	瞳（詩）	36
	伊藤俊夫	このうつくしい秋の夜に（詩）	38
	阿部保	流水（詩）	40
	千葉宣一*	不在時間（詩）	42
	井手貴夫	ヘルマン・ヘッセの理想国	44
	藤田清次	読者への不信―宇野浩二小論―	55
	佐々木惣二郎	会社農業	61
	矢島武	「ほりす」ということ	63
	岡田正夫	写真懐古	64
	小幡弥太郎	閑字談	68
	林善茂	神威岬と女人禁制	76
	山田淳一	手（感覚三題）	80
		原稿募集要項	84
	熊沢良雄	耳（感覚三題）	85
	内田亨	目（感覚三題）	86
		片隅の声	88
	佐々木宏*	黒い蝶（詩）	89
	窪田薫	十四行詩（詩）	92
	後藤辰男	孤島の冬（詩）	94
	佐藤正一	学生部の憂愁―大学の自由・大学の自治・秩序維持について―	98
	可知春於	ダム（創作）	102
		執筆者紹介	107
	津田一夫*	春日抄（創作）	108
	井上貞行*	花のおどり（創作）	121
	編集後記	128	
<b>【第4号】</b> 発行所：北大季刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：野田寿雄 発行日：1953年6月1日 判・頁：B 6・170頁	今村成和	憲法改正と憲法の危機	2
	砂沢喜代次	教育の自由と責任	12
	村上嘉隆*	この魅せられたる魂―ロマン・ロランについて―	21
	佐々木宏*	立原道造について（I）―OrientationとSituation―	31

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
印刷元：中西写真製版印刷株式会社 定価：50円 売捌元：北方出版社	児玉作左衛門	色丹アイヌとパニヒダの思い出	38
	山田幸男	採集旅行の思出	43
		北大季刊編集規定	46
	館脇操	湖	47
	内田亨	今堀さんの回想	52
	村山出*	樹氷について (詩歌)	54
	橋本剛*	黒い海―「海のうた」序章― (詩歌)	56
	木村徳国	新しい建築の美はしさについて―建築の内側から―	59
	渡辺欽也*	報告・1 新しい演劇	67
	文学研究会	報告・2 国民文学への一考察	70
	元田茂	おしよろ丸航海記―附くろしお号潜海記―	73
	高村幹男*	電源開発―夢と計画―	77
	多勢隆*	私の覗いた社会―あるアルバイトの手記―	83
	小林昌子*	三月尽 (詩歌)	86
	青原真一	雪のシュヴアルツヴァルト	88
	小栗浩	憂鬱断想	92
	東晃	人工降雨	98
	杉野目浩*	一月の日高山脈へ	101
		片隅の声	110
	琴野孝	M・ドツプ著 岡稔訳『政治経済学と資本主義』(書評)	111
	木村謙二	辻村太郎監修『綴方風土記 第二巻東北篇』(書評)	116
	野田寿雄	武田泰淳『風媒花』(書評)	119
	三木愿	死者と生者 (創作)	122
	服部一良	深夜の葬祭 (創作)	131
	可知春於	『白い手』の夫妻 (創作)	144
	山根対助編*	北大のあゆみ―1952・4～1953・3―	157
		編集後記	170
<b>【第5号】</b>	小林己智次	労働運動とその思い出	2
発行所：北大季刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：野田寿雄 発行日：1953年12月1日 判・頁：A5・116頁 印刷元：中西写真製版印刷株式会社 頒価：50円 売捌元：北方出版社	高倉新一郎、逢坂信彦	対談札幌農学校の背骨	10
	伊藤俊夫	ふるさとの夕べに (詩)	18
	吉田順五	平和への歩み	20
	アー・スヴォーロワ (金本藤雄、さねとう・すすむ共訳)	私たちの巡回図書館	24
	林善茂	ひと日のくらし (短歌)	28

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
	大爺栄一	アメリカの大学生	29
	本田盈四郎*	学生は無気力か	35
	半田耕一*	工学部に学んで	38
		執筆者紹介	43
	岩崎允胤	形式論理学と弁証法—ソ同盟における討論—	44
	千葉宣一*	不在時間（詩）	53
	橋本雄一	暗い波止場	56
	関清秀	籠山京著「貧困と人間」（書評）	58
	清野昌一*	阿部保著「紫夫人」（書評）	60
	窪田薫	ホフマンとボードレール—万物照応をめぐっての覚書—	62
	飯塚朗	秋箋	67
	ジヨージ・サヴァ（沢丈二抄訳）	ロマノフ朝の生きた化石	70
	村田豊雄	道東紀行（短歌）	86
	原薫*	暗い夜（創作）	88
	谷藤浩*	あれもこれも（創作）	96
	牧雅俊*	小品二題（創作）	108
		編集後記	116
<b>【第6号】</b> 発行所：北大季刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：林善茂 発行日：1954年7月5日 判・頁：A5・112頁 印刷所：中西写真製版印刷株式会社 頒価：50円	高倉新一郎	札幌農学校教授新渡戸稲造（1）	2
	竹岡勝也	大学図書館の構成と機能	12
	前田新太郎	財政経済漫筆	16
	伊藤俊夫	影絵（詩）	20
	金田弘夫	カメラ放談	22
	阿部與	思い出の人々	27
	鎌田正三	インチキ会社雑感	32
	犬飼哲夫	動物幻想	34
	保坂直太郎	縁なき土壌	37
	阿部保	火山噴出（詩歌）	44
	菱川善夫*	沈澱物（詩歌）	46
	匠秀夫*	日本近代絵画の性格—その日本的性格の展開について—	48
	逢坂信彦	ホキツトマンに就て（其の一）	63
	吉田洋一	清川誠一君のこと	74
	新聞進一	ゆかりの人	78
	小寺琢朗*	一般教養部見たま、聞いたま、 北大季刊告知板	82 87
	下地泰子*	女子教育とその障碍について	88

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
	光吉賢一	書記局半年	92
	市江弥門*	散る花の下で (創作)	98
		編集後記	112
<b>【第7号】</b> 発行所：北大季刊刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：林善茂 発行日：1955年1月30日 判・頁：A 5・204頁 印刷所：中西写真製版印刷株式会社 頒価：70円 (学内50円) 特集：北海道文化論 (一)	北大季刊編集委員会	島先生に謝す	1
	高倉新一郎	札幌農学校教授新渡戸稲造 (2)	2
	市川三枝子	思想と生活の一元化—有島武郎の小説「親子」に関するノート—	8
	織田衛*	昭和初年代文学の一面—ジェムズ・ジョイス輸入の初期を中心に—	16
	宮原将平	平和の科学と戦争の科学—中谷教授へ呈す—	21
	中谷宇吉郎	軍事研究とは何か	27
	阿部保	美に憑かれた人—木田金次郎氏の画業焼尽す—	29
	新島登紀子*	秋の賦 (詩歌)	31
	伊藤俊夫	マドリガアル (詩歌)	32
	滝沢政治*	窓辺の歌 (詩歌)	34
	木村祗一郎*	アンゼラスの鐘の鳴る高殿	36
	逢坂信吾	ホイットマンに就て (其の二)	38
	新川士郎	北海道経済文化に関する一試論 (北海道文化論 (一))	51
	大谷木賢二	北海道と科学技術 (北海道文化論 (一))	55
	大塚博	北海道の澱粉工業 (北海道文化論 (一))	61
	佐々木隆介	北海道の社会教育—現実と希望— (北海道文化論 (一))	66
	矢島武	農村文化について	71
	明道博	花と生活	76
	川村琢	農村の組合談義	79
	及川郁夫*	農村に育つて	82
	内村真佐巳*	ピラと学生運動	89
	福重隆幸*	青春の行方	90
	浜田龍夫*	—学生の考え	95
	明石勝英	中共抑留の九年 (一)	98
	井上貞行*	赤い灯—想い出の樺太—	113
	石塚長治*	全日本レガッタに優勝して	122
	所雅彦*	終バス (創作)	124
	谷藤浩*	地の人 (創作)	138
若林玲子*	湖 (創作)	151	
八代葵*	遁走曲 (創作)	166	
早川三代治	穴 (創作)	180	

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
		北大季刊告知板	200
		編集後記	201
<b>【第8号】</b> 発行所：北大季刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：林善茂 発行日：1955年6月20日 判・頁：A 5・174頁 印刷所：中西写真製版印刷株式会社 頒価：70円（学内頒価50円） 特集：北海道文化論（二）	野田寿雄	北海道の文学（北海道文化論（二））	2
	堀江悟郎	北海道の住宅（北海道文化論（二））	8
	佐山総平	北海道の石炭北海道の総合開発にどんな関係があるか（北海道文化論（二））	16
	逢坂信彦	ホイットマンに就て（其の三）	23
	渡辺侃	カール・サンドバークの詩	36
	源新義弘*	処女（詩歌）	41
	足立俊一郎*	ペランダの歌（詩歌）	42
	湯浅滋*	二つの影（詩歌）	44
	加藤多一*	不安なる空（詩歌）	46
	菊地安都子*	O・ヘンリーのこと	47
	明石勝英	中共抑留の九年（二）	51
	岡不二太郎	明石教授の「中共抑留九年について」一編集者より一	63
	横山龍夫*	ミチューリン運動に対する一私見	65
	平石修*	敗北の記録	70
	滝沢義郎	西独乙の大学	81
	木村祗一郎*	追憶のつもる路（詩歌）	92
	あさの・あゆむ	ある月夜の風景（詩歌）	94
	杉野伸平	歷程（詩歌）	96
	内村真佐巳*	試験と運と実力—大学寸景—	98
	丸山義皓*	米国に於ける印象（1）	101
	高村晴雄*	稚魚（詩歌）	111
	清野政明*	ある黄昏の物語（詩歌）	113
	藤本明史*	リュシアン（詩歌）	115
	柳圭次郎*	エルム樹の下の対話	117
	西川正巳	教養一年六ヶ月“父兄の見た”	121
	谷藤浩*	町工場主（創作）	125
	岩野敏彦*	ピエロ（創作）	138
	小野賢一*	翳り（創作）	149
赤石義博*	流転（創作）	159	
		編集後記	171
		北大季刊募集規定	173
		北大季刊編集規定	174
<b>【第9号】</b> 発行所：北大季刊行会 発行者：岡不二太郎	中島九郎	北大の父佐藤昌介先生—クラークの子—	2
	矢田俊隆	思想・言論の自由とデモクラシー	12
	中原稔生	「グレートヒエン悲劇」と宗教	16



号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
編集者：林善茂 発行日：1955年12月1日 判・頁：A 5・193頁 印刷所：中西写真製版印刷株式会社 頒価：50円	丸山義皓*	米国における印象 (2)	23
	Hermann Hecker	REISE-EINDRÜCKE IN DEUTSCHLAND	34
	ヘルマン・ヘッカー (岡不二太郎訳)	ドイツ旅行の印象	49
	源新義弘*	九月の感傷 (詩歌)	57
	逢坂信吾	ホイットマンに就て (其の四)	58
	宮原将平	欧亜の初旅	71
	飯塚晃章*	アナキズムの方向—ハーバード・リードの所見をめぐつて—	79
	清野政明*	デイオニソス童話 (詩歌)	82
	保坂直太郎	民族の顔	84
	白井彦衛*	札幌の都市景観	97
	伊藤俊夫	阿部保詩集「冬薔薇」を読みて	104
	林善茂	白き幻 (詩歌)	107
	千葉宣一*	エロス・エネルギー (詩歌)	108
	松田淳子*	生活のための二本のレール	110
	相山佳史*	とんぼ	112
	桧山吉平*	随想二題	115
	和田正信*	美しい日本語のために	116
	松木洋三*	「砂川町問題」に考える	123
	池田元彦*	「音楽がわかる」と云うこと	126
	塩見俊一*	桑の実 (詩歌)	128
	加藤多一*	戦ひなき故郷 (詩歌)	129
	千葉亨*	北大の今昔を思う	130
		北大季刊告知板	134
		執筆者紹介	134
	成河智明*	彷徨 (創作)	135
	堂本茂	十字架の見える路地 (創作)	148
	牧野法郎	雲 (創作)	161
	井上貞行*	春の風 (創作)	169
足立俊一郎*	八人のユダ (戯曲)	178	
	編集後記	191	
<b>【第10号】</b>	中島九郎	北大の父佐藤昌介先生 (その二)	2
発行所：北大季刊刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：林善茂 発行日：1956年6月20日	逢坂信吾	ホイットマンに就て (其の五、完)	18
	山田定市*	農民と協同組合	33
	渡辺孚	職組委員長始末記	40
	能勢邦之*	クラークの言葉に想う	46

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
判・頁：A 5・189頁 印刷所：中西写真製版印刷株式会社 頒価：50円 特集：学生の声－アンケートより－	滝沢政治	詩集「三稜石」を読んで	51
	北田寛二*	歳月（詩歌）	52
	加藤多一*	落日のキャンパス（詩歌）	53
	今田敬一	北海道文化論（三）北海道の美術	54
	田中郁夫*	ジヤズと民謡	61
		編集規定	71
	武井耀一*	スケッチ（詩歌）	72
	遠田晤良*	蝸牛（詩歌）	74
	矢島武	西洋拝見（その一）	76
	飯田哲雄	機械音（詩歌）	80
	塩見俊一	かの女にせめてむくいむ	81
	久慈慶一*	フィリッピンの国と人々	82
	丸子基夫	貧乏留学生のドイツ寸見	89
	B・ミリャノヴィッチ（井上修次訳）	ユーゴスラヴィアは答える 在日ユーゴスラヴィア公使館一等書記官ブランコ・ミリャノヴィッチ氏講義録音	93
	B・ミリャノヴィッチ（井上修次訳）	ユーゴスラヴィアの過去と現在 ブランコ・ミリャノヴィッチ氏講演訳稿	101
	岡不二太郎	ミリャノヴィッチ氏の講義を傍聴して	106
		談話室	108他
		特集・学生の声－アンケートより－	109
	滝沢政治*	わかれ（詩）	124
	樋口敬二*	「猫の裁判」を読んで	126
	秋山峻一*	いろいろな色	128
	藤田脩一*	善	131
	大藤優子*	運命	136
	重岡美子*	こぶしの花の咲く頃	137
	伊藤俊夫	夜の歌（詩歌）	138
	宮本春雄	ビタミン愛の欠乏（創作）	140
	奥村八重	奈落の人々（創作）	155
	所雅彦*	黄色い顔の中（創作）	169
	茂島索郎	不倫の死	181
	<b>【第11号】</b>	中島九郎	北大の父 佐藤昌介先生（その三、完）
発行所：北大季刊刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：林善茂 発行日：1956年12月1日 判・頁：A 5・180頁 印刷所：中西写真製版印刷株式会社	伊藤秀五郎	クラークの遺影	21
	逢坂信吾	クラーク先生を憶う	28
	吉田順五	北大戦組の一面 戦組闘争の仕掛け	38
	松井茂雄	いわゆる進歩的組合理解者なるものについての雑感	49
	館脇操	流離（詩歌）	51

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁	
頒価：50円	丸子基夫	ローマとナルヴィクとの間	58	
	宮本隆夫	フルブライト留学生の第一印象	66	
	菊野正隆	ミラノ通信	70	
	切替辰哉	チュビンゲン便り	74	
	江口静子	実験室 (詩歌)	82	
	平松勤	遠友夜学校の想ひ出 (随想)	83	
	鈴木清吉	水芭蕉 (随想)	85	
	渡辺侃	カーライル―北大八十年史余滴―	87	
	大藤優子*	手拭と自分と神 (随想)	89	
	福田崇志*	秋に思うこと (随想)	92	
	小池陸雄*	学生生活一年半 (随想)	94	
	児島英之*	青春 (随想)	96	
		談話室	98	
	岡本秀男	白鯨―小説と映画― (書評)	101	
	阿部保	象と花苑 (詩歌)	104	
	千葉宣一*	人間の絆 (詩歌)	106	
	小林文男*	尾根 (詩歌)	108	
	久木村久*	春の日高山脈―山日記より― (随想)	110	
	成河智明*	北大創基八十周年に思う	116	
	樋口敬二	梅棹忠夫著モゴール族探検記 (書評)	120	
	宮本春雄	ビタミン愛の欠乏 (2) (創作)	123	
	所雅彦*	公魚―或るいは休暇末の小旅行にて― (創作)	132	
	成河智明*	日高の空 (創作)	150	
	堂本茂	神武1006工場 (創作)	163	
		編集後記	177	
		編集規定	180	
	【第12号】 発行所：北大季刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：林善茂 発行日：1957年6月15日 判・頁：A 5・185頁 印刷所：文栄堂印刷所 頒価：50円	島善鄰	春宵漫筆	2
		W. S. クラーク (逢坂 信恐 訳・解説)	クラーク先生独乙留学中の私信―東―先生の令孫が北大八十周年祝典に際し持参された文献―	8
阿部興		ドイツの炭鉱節	32	
		談話室	41他	
森杲*		合唱 (活動と方法への考察)―特に北海道の場合を中心として―	42	
矢野雋輔		大学の空転―学外者の眼―	47	
吉谷俊裕*		雪とけて (詩歌)	51	
上田外昭*		黄昏のスプリーン (詩歌)	52	
加藤多一*		蒼白のピラ (詩歌)	53	
土肥次則*		囚はれの自画像 (詩歌)	54	

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
	小栗浩	春日断想	
	あさのあゆむ*	浜の話（詩歌）	58
	阿部保	緑の曠野に放て（詩歌）	60
	佐藤輝夫*	青虫が蝶になつた	62
	鈴木元彦*	農村に仕事場を求める者の条件と農村改革	67
	和田正信*	技術論ノート	73
	牧田道夫*	言論と主義について	80
	吉田順五	北大職組の保守反動性	83
	坂本康明*	詩誌「すかるほ」と人生	90
	浅野孝*	伝説 幽霊島（詩歌）	92
	池田元彦*	音楽がわかると云うこと（その二）	94
	遠山凌*	悲しむべきこと	96
	水島正幸*	“Congratulations!”	97
	箕岡三穂*	花冠 滝沢政治詩集	99
	小倉新一*	北大入学の記	100
	畠芳郎*	入学生の見た北大とその学生運動	101
	青木清*	札幌の地を踏んで	106
	成河智明*	れんぎょうの雨	107
	森田晃*	潮風	108
	保坂直太郎	ぼくの英文（創作）	111
	所雅彦*	汽車の煙の見える丘（創作）	118
	石川弘明*	殺人者の自殺（創作）	133
	塩見俊一*	遠い夏（創作）	145
	宮本春雄	ビタミン愛の欠乏（2）（創作）	154
		編集後記	184
<b>【第13号】</b>	逢坂信彦訳・ 注解	クラーク先生在日中の資料一束 北大八十周年式典に際し令孫クラークⅡの持参せるもの	1
発行所：北大季刊刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：林善茂 発行日：1957年12月5日 判・頁：A 5・190頁 印刷所：文栄堂印刷所 頒価：50円	渡辺侃	「都ぞ弥生」歌碑建設について	30
	伊藤俊夫	洞爺の夏の夕暮に（詩歌）	32
	吉田順五	北大の言論	34
	宮原將平	友への手紙	44
		談話室	50他
	堀健夫	北大の自然科学教育——物理学者の考へ——	51
	増淵法之	生物学の一隅から	55
	阿部保	日まはりの歌（詩）	60
	ポーチュバ・ ダース（井上 修次訳）	インドの文化（録音抄録）	62
	田中明	インドの印象（談話記録）	66

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁	
	クラウス・メーネルト (岡不二太郎訳)	独ソ関係について (講演録音)	74	
	編集委員	外国人留学生との座談会	85	
	佐藤正一	「外国人留学生との座談会」に臨んで	92	
	楠宏	南極行雑感	94	
	村瀬勉	苦い知識	98	
	滝沢政治*	そして夕暮 (詩歌)	102	
	松野伝	先生しばらくでした	104	
	宮本真樹*	科学的な人間?	109	
	鈴木元彦*	盆踊り考	113	
	吉岡正雄	大学を出て	120	
	山内俊雄*	大学生	124	
	清水明雄*	真夏の足摺岬—四国旅行より—	127	
	塚田一光	旅について想う	129	
	茂井マリ*	秋	130	
	畠芳郎*	家庭教師	132	
	藤木道子*	網走にて (創作)	135	
	山村赫*	童話三抄 (創作)	140	
	田村武雄	人形の夢—ヘルマン・ヘッセにささげ— (創作)	146	
	保坂直太郎	チタニューム (創作)	154	
	町田荘一郎*	人喰い熊 (創作)	168	
	宮本春雄	ビタミン愛の欠乏 (三) (創作)	177	
		編集後記	188	
	<b>【第14号】</b> 発行所：北大季刊刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：林善茂 発行日：1958年6月25日 判・頁：A 5・192頁 印刷所：文栄堂印刷所 頒価：50円	逢坂信彦 (訳・解説)	クラーク先生へ弟子達の送りし書状—東北大八十周年式典に際し令孫クラークⅡの持参せしもの	2
		佐々木隆介	マス・コミュニケーションの現代的課題—マス・メディアと教育—	27
金森虎男		世界の平和	36	
山極三郎		—カトリック平信徒の見た北大学園	37	
中谷宇吉郎		或る試験の結果を見て	41	
横道英雄		ウイーンの滞在—Ende gut, alles gut.—	45	
石垣博美		社会科学の意味について	53	
小川吉彦*		大学制度に就ての一つの問題	59	
斎藤孝成*		学生保健組合法の改正—組合費の値上げについて—	62	
		談話室	65他	
内田登一		渡り	66	
田川隆		ジベレリンと日本	70	

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
	藤井宏	所謂「藤井事件」の意味するもの	74
	畠芳郎*	理性の敗北 藤井事件	92
	木露学*	鳥の縄張り	101
	藤家壮一*	低迷の徘徊—序にかえて—	105
	田村武雄	音楽について—音楽の表象と感情—	110
	小原慎一*	ギター雑観	116
	山内俊雄*	仏像から	120
	いわさき・ちかつぐ	野鳥（詩歌）	126
	千葉宣一*	遠い人（詩歌）	128
	伊藤俊夫	マルスの手紙（詩歌）	130
	浅野孝*	花と氷河 つちやみつぐ詩集（書評）	132
	西野隆司*	大いなる人間（学生生活の中から）	133
	高田中*	生きるということ（学生生活の中から）	135
	安住斗士夫*	気がかりな話（学生生活の中から）	136
	長瀬清*	新生生のつぶやき（学生生活の中から）	139
	中司修二*	入学して（学生生活の中から）	140
	重岡美子*	北大生活五年間（学生生活の中から）	141
	林耕輔	プレアデスの年たち	143
	古屋統	野島多平（創作）	147
	宮本春雄	ビタミン愛の欠乏（四）（創作）	165
		編集後記	188
<b>【第15号】</b> 発行所：北大季刊刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：林善茂 発行日：1958年12月10日 判・頁：A 5・201頁 印刷所：文栄堂印刷所 頒価：50円 特集：学部長、諸教授と学生との対談	島善鄰	海外移住研究会の学生と語る	2
	田村幸重	ブラジルにおける日本移民（講演録音）	6
	岡不二太郎	現代日本の精神症状—田村幸重氏の講演を聴いて—	18
		談話室	29他
	Geil Cleland	MY PHILOSOPHY OF LIFE	30
	逢坂信彦	時計台の起因並びに鐘と銘とに関する考察—八十週年に際し—	41
		特集・学部長、諸教授と学生との対談（坂元義男教授＝教養部長、松岡修太郎教授＝法学部長、高倉新一郎教授＝経済学部長、武田信一教授＝中央図書館長、中川秀恭教授＝文学部長（質問状による）、山極三郎教授＝獣医学部長、太秦康光教授＝理学部長、宮原将平教授＝理学部（質問状による）内田登一教授＝農学部長、田村正教授＝水産学部長（質問状による）、大坪喜久太郎教授＝工学部長、医学部（安保寿教授・安倍三史教授・藤森聞一教授）、高橋義夫教授＝結核研究所長）	50
山根甚信	若き日のハンス・コラー先生	104	

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
	芳賀良一	博物館の動物標本－その歴史－	109
	川越守	北大交響楽団再建の記	115
	丸子基夫	しろうと工場通訳の記録	125
	田治米鏡二	大学・出張・大学	131
	高階嬉子*	東京の空の下で	136
	柴田和則*	曖昧	138
	野崎恒義*	胸なる人へー私の柔道	141
	伊藤俊夫	遠い弥撒 (詩)	144
	北大中国詩話会*	詩話二題	146
	福田勝洋*	教養生の時代	160
	徳井郁朗*	今日の自治会の活動に寄せる	163
	加藤齊之*	感覚による北大論	166
	國井輝男	親友H君への手紙	170
	熊本信夫*	異端者S君へ	174
	田村武雄	夏のあと－藤原武雄の日記－ (創作)	182
	宮本春雄	ビタミン愛の欠乏 (五) (創作)	190
		編集後記	200
	北大季刊規定	201	
<b>【第16号】</b> 発行所：北大季刊刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：林善茂 発行日：1959年6月10日 判・頁：A5・196頁 印刷所：文栄堂印刷所 頒価：70円	伊藤秀五郎	神々の挫折	3
	砂沢喜代次	沖縄の教育	10
	後藤辰男	学生運動に関する雑感	17
	佐藤正一	学生課長回顧十年－主として課外活動について－	24
	ウィリアム・D・エディー (鈴木重吉訳)	北大での経験－美術を教えたり教えられたり－	31
	金田弘夫	農業法人の対決的課題－「連帯化の組織」としての農業法人－	39
	奈良岡健三	体育 スポーツ・リクリエーション	46
		談話室 I	52他
	筒井秀武	音楽随想	53
	今井康利	市民の音楽 音楽教師のささやかな動きから	58
	大平整爾*	「英雄」－音楽を通じてのエピソード－	61
	矢島京子	或る死 (詩歌)	71
	福土貞吉	旅の歌 (詩歌)	72
	大沢巖*	現代人と思考	74
	小田修*	Sへの手紙と随想	81
	茅野純*	京都の春－修学院離宮を訪ねて－	86
	徳永恂	山猫の死－石川道雄詩集「半仙戯」によせて－	90

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
		談話室Ⅱ	98
	永井義哉	シェイクスピアを読もう！	99
	青戸偕爾	ぴーぷる	109
	田治米鏡二	団体研究・陳情政治	114
	野村信幸	雲の彼方（詩歌）	117
	伊藤俊夫	冬の花びら（詩歌）	118
	井手賁夫	阿部保詩集「蝶」（書評）	120
	浅野孝	不在の夜のために（詩歌）	121
	塩入清哲*	ルリ色の海の上で（日蝕観測航海記）	122
	林耕輔	札幌天文台の一年	127
	Hermann Hecker	HEIMREISE	131
	ヘルマン・ヘッカー（滝沢迪子訳）	オパ（祖父）からの便り	139
	高橋三郎*	ドイツからの便り	143
	白井徳満*	「対談」を読んで－教養部学生として考えた事－	146
	今野益雄*	感想－学生の思想的立場の表明－	149
	北大中国詩話会	詩話（二）	154
	やまのうち・としお*	スフィンクス（創作）	166
		談話室Ⅲ	173
	田村武雄	教授令嬢（創作）	174
	わかりません（宮本春雄訳）	いつかはカレは帰ってくる	187
		編集後記	195
		北大季刊規定	196
<b>【第17号】</b>	木村徳国	日本の建築美	3
発行所：北大季刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：林善茂 発行日：1959年12月15日 判・頁：A 5・172頁 印刷所：文栄堂印刷所 頒価：50円	稲垣肇*	ドイツ文化と人間性	18
		談話室	20他
	高倉新一郎	クラーク博士と北海道大学	21
	足羽進三郎	アマーストの生活から	28
	川村琢	インドの農業市場	34
	高岡熊雄	米寿を迎えて	39
	内田亨	停年制事件	44
	田村武雄	友を求めて－私の芸術小論－	48
	林善茂	装飾文様（短歌）	60
	重松康秀*	神への信頼と疑問－尼僧物語より－	61
	上條栄治*	秋の大原	68
	川上栄子*	大雪山－自然は招く	73



号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
	倉田恵介	ビルグリムズ・プログレス	78
		北大季刊原稿募集	83他
	富田五久*	後輩へ送る雑感	84
	中川碧*	救い - 罪と罰より	87
	稲垣修一*	ポプラ並木	89
	衛藤孝俊*	ものろーぐ	91
	酒井正雄*	宗教 なくなる?	94
	品川秀夫*	それは進歩か退歩か	95
	山本豊*	夢と愛を	97
	神沢克一*	僻地の子らと共に - 童研僻地公演の記 - (サークル活動の中から)	98
	白井俊一*	北大交響楽団のねがい - 東北演奏旅行を顧 みて - (サークル活動の中から)	105
	金沢恒寿*	残響 (サークル活動の中から)	110
	竹内徹*	空手を思う (サークル活動の中から)	118
	稲松亮*	サークル活動を通して見た学生生活 - 北大 うたう会 - (サークル活動の中から)	120
	青山政雄*	自治会活動と私 (サークル活動の中から)	124
	北大中国詩話会	詩話 (三)	128
	樋口敬二	『洋書は高い』 ことについて - 外国学会の 刊行物の価格 -	137
	大平整爾*	邯鄲の夢 - 山川宏の手記 - (創作)	140
	出口裕弘	八月党始末記 (1) (創作)	158
	浅野孝	いわさきちかつぐ詩集 旅人の歌・童子の 歌 (書評)	168
林善茂	村田豊雄歌集「白亜館にて」(書評)	169	
	編集後記	170	
<p>【第18号】</p> <p>発行所：北大季刊刊行会                      発行者：岡不二太郎                      編集者：林善茂                      発行日：1960年6月25日                      判・頁：A5・206頁                      印刷所：文栄堂印刷所                      頒価：50円                      特集：実社会の窓から</p>	館脇操	緑の中の文化交流	3
	池田善長	農業開発への期待 - 開発論争への一つの解答 -	9
	渡辺侃	有島武郎先生のこと - 北大思想史の一断片 -	15
	高橋空山	日本楽への一考察	19
		談話室	24他
	三宅和夫	タイ国の文化と教育事情	25
	太田実	クラーク会館の建築	33
	倉本雄三郎	クラーク会館	39
	白井俊一	学生会館の諸問題 クラーク記念会館の竣 功に当り	43
	熊本信夫*	“異端者S君へ” について再び - 真理と価 値観の問題 -	47

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
	ウィリアム・D・エディー (岡不二太郎 訳)	「ドクトル・ジバゴ」に起ったこと	55
	Juhn A. Wada	SIR WILLIAM OSLER; A GREAT CANADIAN MIND	58
	Gladys Lee Westcott	JAPAN AS SEEN BY AN AMERICAN WOMAN.	68
	Jane Fairbanks Drake	IMPRESSIONS OF JAPAN	73
	Elizabeth Tucker Eddy	MY CONFESSION	76
	Jean Morris Tucker	JAPAN IN THE EYES OF AN AMERICAN WOMAN	78
	グラディス・リー・ウエストコット (山里澄江訳)	一アメリカ婦人が見たままの日本	80
	ジェーン・フェアバンクス・ドレーク (山鼻康弘訳)	日本の印象	83
	エリザベス・タッカー・エディー (山鼻康弘訳)	私のうちあけ話	85
	ジーン・モリス・タッカー (山鼻康弘訳)	一外国女性の見る日本	87
	浅野孝	遠い儀式 (詩)	90
	阿部保	詩の道程	92
	岡不二太郎	原稿あつめ	97
	中村貞雄	水産学 HBCテレビ (実社会の窓から)	104
	鈴木秀一	一サラリーマンの生活体験 (実社会の窓から)	106
	千葉享	医学を学んで (実社会の窓から)	109
	小田泰子	インターン生活から (実社会の窓から)	112
	熊谷昌夫	好ましい“均一” (実社会の窓から)	114
	岡不二太郎、林善茂、金田弘夫、山内俊雄*、徳光凱*	原始人と文化人—或る談話— (座談会)	116
	長谷川順一*	灰色の顔	135
	三原兼治*	開拓地調査の思い出	141
	石井功*	亀羅放談	145

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
	檜山護*	サイクリング 札幌から東京まで	148
	油谷浩助*	新入生として	154
	川西与比*	といれっと	155
	朱雀典昭*	エルム	157
	福山博之*	坊チャン学生行状記	159
	島田昭吉*	学生野郎	161
	山鼻康弘*	新入生に望む	164
	北大中国詩話会	詩話 (四)	167
	杉山直*	雑感 幸福の後にくるもの ケッセル堀口 大学訳を読んで	177
	野坂幸弘*	序の歌 (創作)	186
	田村武雄	カミレの日 (創作)	193
		編集後記	205
	<p>【第19号】</p> <p>発行所：北大季刊刊行会                  発行者：岡不二太郎                  編集者：林善茂                  発行日：1960年12月15日                  判・頁：A 5・180頁                  印刷所：文栄堂印刷所                  頒価：50円                  特集：創作特集</p>	和田淳	アイオワの思い出
芳賀良一		南極への旅	11
		談話室	18
高橋空山		交響詩《虚空》について	19
岡不二太郎		交響詩“虚空”の反響	26
Jane Fairbanks Drake		AUTUMN IN HOKKAIDO	35
Dr. William S. Clark II		UNIVERSITY EDUCATION AND THE ART OF LIVING	38
飯塚礼二		研究と生活—西独から帰つて—	45
高島太郎		「由美」あれこれ	48
玉川真純		弓道場由来記	53
相馬暁*		札幌セツルメント誕生記	58
大塚知行*		孤杖無限	62
梶村光男*		あるくらげの漂流記	65
		北大季刊原稿募集	68他
大木洋*		ある根本的な相違	69
茅野純*		“四年は長くない”	72
近藤文衛		医学と信仰	77
谷岑夫*		私と絵画	81
阿部保		艶な燭台 (詩歌)	84
林善茂		秋の譜 (詩歌)	86
太田利隆*・ 中島京子*		悲秋 (詩話)	87
山田次郎*		政治の季節に	93
萩原清次郎		わが民族の試煉—克服か、敗退か—	97

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
	磯貝芳正*	私の考え—安保反対運動をめぐって—	110
	鶴崎敏秀*	法と人間性	118
	大平整爾*	縮尺の世界—E君の断面—（創作）	119
	佐藤尚爾*	暮色挿話（創作）	134
	渡辺淳一	アン・ドウ・トロア（創作）	144
	古屋統	雪霏々（創作）	150
	山口圭造*	消えた女（創作）	157
	梶田知身*	夏の日の出来事（創作）	170
	野田寿雄	小説作法	178
		編集後記	179
		北大季刊編集規定	180
<b>【第20号】</b> 発行所：北大季刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：林善茂 発行日：1961年6月25日 判・頁：A 5・172頁 印刷所：文栄堂印刷所 頒価：70円 特集：サークル活動の中から	渡辺侃	ソ連視察	3
	小川玄一	胎児人工哺育の夢	10
	山下次郎	体虫炉話	19
	三浦四郎	養鶏ブームと大学	30
	丹保憲仁	衛生工学について	32
	小栗浩	下宿の人々—私のヨーロッパ生活—	37
	萩原清次郎	我が民族の試煉（後篇）—克服か、敗退か—	44
	ドラホミール・イリツク	チェコスロバキアの過去と現在	66
	阿部保	蝶を売る老婆（詩）	76
	小山司朗*	海外技術協力の意義（サークル活動の中から）	78
	大場善明*	馬と或る学生（サークル活動の中から）	82
	福田修平*	奏く方から見た学生音楽—北大チルコロ・マンドリニスティコ・アウロラ（サークル活動の中から）	90
	野中成郎*	部の印象—自動車部—（サークル活動の中から）	91
	大橋晴夫*	鯨（詩）	98
	野村信幸	白い手袋（詩）	100
	野村信幸	停車場	101
	塩月斎*	心の変化	102
	たかはしのぶかつ*	日陰の散歩	106
	品川秀夫*	『孤独な人間像』	112
		談話室 I	115
	大島戌*	父と僕 —一年をふりかえって—	116
	原田幸雄*	魂の漂泊	128
	荒木健巳*	河畔にて—或る一日—	136
梶村光男*	一つの古い言葉	143	

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
	浅野孝	痛みへの装飾—北大季刊十九号創作特集評—	148
	大平整爾*	サイコー答えられぬ質問— (創作)	150
	梶田知身*	乱反射 (創作)	157
		談話室Ⅱ	169
		編集後記	170
<b>【第21号】</b> 発行所：北大季刊刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：林善茂 発行日：1962年12月20日 判・頁：A 5・197頁 印刷所：文栄堂印刷所 頒価：70円 特集：内村鑑三生誕百年記念 講演	東晃	文明と文化	1
	清野昌一	カナダ断片	11
		談話室	15他
	Sten Bergman 述(館脇操訳)	わが生涯の思い出	16
	森戸辰男	共同体としての大学 (講演)	25
	松本久喜	大学と牧場	39
	樋口敬二	無防備の国	42
	酒井保	牛と馬と獣医学	49
	大嶋隆	字説	53
	阿部保	紅の花 (詩歌)	60
	村田忠良	秋の夜の断想	62
	近藤文衛	学生生活からの意見 六年間を顧みて	66
	木村徳国	第二農場の保存について—モデルバーン覚え書き—	75
	田口啓作	来て見ておもうこと	79
	時田郁	札幌と先生と私 (内村鑑三生誕百年記念講演)	84
	内村祐之	所感 (内村鑑三生誕百年記念講演)	91
	品川秀夫*	疑惑の散歩	96
	福田勝洋*	一本の棒くい	98
	福村繁一*	夏の旅	101
	William D. Eddy	RETURNING TO JAPAN AFTER A YEAR	109
	Julian J. Jacobs	ABSTRACT THOUGHTS	112
	William Branch	YESTERDAY, TODAY AND TOMORROW	121
	Michael P. Lynch	THE HOKKAIDO EXPERIENCE	124
ウィリアム・エディー (山鼻康弘訳)	一年後に日本に戻って	127	
北大大学院生協議会(森杲*)	大学院生の生活と研究—北大大学院生の実態調査—	129	
堤正太郎*	尺八と共に (サークル活動の中から)	150	

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
	上條栄治*	茶道に思う 茶への偏見に対して（サークル活動の中から）	153
	三品博達*	演劇研究会で（サークル活動の中から）	156
	千葉享	死の変貌	161
		北大季刊原稿募集	162他
	熊本信夫*	異端者S君論－生活と価値観の問題－	163
	原田幸雄*	滅亡の民	170
	やまのうちとしを	衛河（創作）	178
	古屋統	狼咽の児（創作）	188
		編集後記	195
	北大季刊編集規定	197	
<p>【第22号】</p> <p>発行所：北大季刊刊行会                      発行者：岡不二太郎                      編集者：林善茂                      発行日：1962年6月25日                      判・頁：A 5・181頁                      印刷所：文栄堂印刷所                      頒価：70円</p>	大嶋隆	鄧書燕説－中国文字学小論－	3
	渡辺侃	メキシコを見る目	12
	館脇操	ハワイ雑記－花都ホノルル－	20
	篠原正三	学生会館について	31
	室木洋一	健康へのあゆみ－イタリアについて－	36
	外川継男	チェーホフの少年時代	42
	玉重三男	動物と工業技術	52
		北大季刊原稿募集	55他
	関勝宏*	人間とその霊界	56
	新谷幸隆*	現代人の生き方	65
	大内日出男*	シュヴァイツァー博士から日蓮大聖人へ	69
	今野英一*	人生は自由だというのが……	72
	丹治順*	バラード	80
	林善茂	苺（詩）	84
	山鼻康弘	わがインターン生活－美唄市立病院通信－	85
	阿部保	蝶（詩）	92
	藤井興史郎	波の中で考えた事	94
	大屋厚視*	私の学生生活	96
	宮川榎子*	オケラ生活一年	98
	藤山二郎*	教養四年目	99
	William D. Eddy	A GREAT WORD NOBODY KNOWS	102
	Fritz Opitz	ÜBER DIE “AKADEMISCHE FREIHEIT” AN DEN DEUTSCHEN UNIVERSITÄTEN	105
	フリッツ オピッツ （円治寿太郎、横田ちゑ訳）	ドイツの大学における〈大学の自由〉について	109
	野村信幸	詩二題	112
	大北順二*	下宿生活の僕と母	114

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
		談話室	117他
	萩原祥三	石狩河口にて	118
	高橋空山	イスラエルと西欧への旅	123
	B. D. Tucker	THE SOCIAL CONSCIENCE	135
	J. Jacobs	FOREIGN IMPRESSIONS OF JAPAN, NO.2	138
	Thomas B. Widdowson	A GLIMPSE OF JAPAN	141
	稗田哲也*	大学への雑記	143
	金俊彦*	「冬の旅」DieWinterreise に寄せる随想	146
	望月正大*	少年 (創作)	150
	田村武雄	試験場にて (創作)	152
	古屋統	松並源徳の下半身 (創作)	170
		編集後記	180
		北大季刊編集規定	181
<b>【第23号】</b> 発行所：北大季刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：林善茂 発行日：1963年12月25日 判・頁：A 5・194頁 印刷所：文栄堂印刷所 頒価：70円 特集・中谷先生を偲んで	伊藤秀五郎	クラークの後裔	3
	小山昇	大学の管理運営の論理	9
	飯田広夫	カナダの思い出	23
	高橋空山	イスラエルと西欧への旅 (二)	26
	永山政一	東部カナダ、アメリカ自動車旅行記 (一)	41
	大橋晴夫*	竹林 (詩歌)	50
	相上譲一	これが北大寮歌だ!!	52
	村田忠良	想いより想いをたどり	57
	高倉新一郎	下北の旅	63
	きゞあきら	たわごと抄	74
		北大季刊原稿募集	83他
	平井操	「人間」と「女性」の間	84
	山岸敏久*	ヨット四季	86
	裏悦次*	山小屋にて	89
	Hannelore Opitz	EINDRÜCKE VON JAPAN	93
	ハンネローレオピッツ (岡不二太郎訳)	日本の印象	94
	Julian J. Jacobs	THE ENGLISH LANGUAGE AND JAPAN	95
		談話室 I	99他
	David J. Michell	SCIENCE AND RELIGION	100
	高橋清之	折にふれて (詩歌)	103
	阿部保	神の手 (詩歌)	104

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
	林善茂	凝寂（詩歌）	106
	編集委員岡不二太郎	特集・中谷宇吉郎先生を偲んで	107
	平田森三	中谷宇吉郎の研究の特色（特集・中谷先生を偲んで）	108
	東晃	中谷先生の研究業績（特集・中谷先生を偲んで）	112
	古市二郎	よき時代の先生と学生—中谷先生のある思い出—（特集・中谷先生を偲んで）	119
	内田亨	中谷君の思い出（特集・中谷先生を偲んで）	127
	井上直一	中谷先生とくろしお号（特集・中谷先生を偲んで）	129
	孫野長治	中谷先生の一遺産（特集・中谷先生を偲んで）	134
	高橋佐武郎	中谷先生と神仙道—その宗教へのアプローチ—（特集・中谷先生を偲んで）	137
	小口八郎	中谷先生の随筆（特集・中谷先生を偲んで）	141
	樋口敬二	お釈迦さまの手のひら（特集・中谷先生を偲んで）	146
	熊井基	国際人としての中谷先生（特集・中谷先生を偲んで）	147
	余語トシヒロ*	北大文連の現状	151
	前川匡志*	第一回国立七大学総合体育大会	154
	大内日出男*	アルバイト	159
	成田誠一*	南の島に遭難する	163
	望月正大*	不毛（創作）	170
	阿尾蒼*	暗き海の埋葬（創作）	186
		編集後記	193
		北大季刊編集規定	194
<b>【第24号】</b>	清野昌一	自由の子等—デユカボー、この奇妙な人たち	1
		談話室	10他
発行所：北大季刊行会 発行：岡不二太郎 編集者：林善茂 発行日：1963年6月30日 判・頁：A5・183頁 印刷所：文栄堂印刷所 頒価：70円	戸尾祺明彦	フランス留学をかえりみて	11
	館脇操	スエーデン日記	24
	高橋空山	イスラエルと西欧への旅（Ⅲ）	38
		北大季刊原稿募集	54他
	森田昭之助	大学生の精神衛生に思う—精神科医の立場から—	55
	篠原正三	ニューヨーク・ロンドン・パリ	61
	小栗浩	ドイツの大学生活—私のヨーロッパの生活その二—	66



号数・書誌情報	執筆者	表題	頁	
	阿部保	山脈遠望 (詩歌)	74	
	林善茂	ロマンの旅 (詩歌)	76	
	徳山晋一*	ベートヴェンとメトロノームの話	78	
	松田恵明*	わたくし	84	
	近藤文衛	「釜ヶ崎」インターン記	92	
	合田一博*	王維の美の世界	99	
	和田正信*	伝統	108	
	William David Eddy	Faces	113	
	小野宏逸*	北大の印象 ——学生の嘆き——	117	
	村田忠良	八雲にて——精神科医のつぶやき——	127	
	ウィリアム・D・エディー (寺久保友哉訳)	顔	130	
	梶村光男*	友への手紙	133	
	大内日出男*	教養課程	137	
	大石一利*	水五訓	141	
	菅原正臣*	“もっと独りを……”	143	
	出羽弘明*	人間性を求めて	145	
	寺久保友哉*	美奈 (創作)	149	
	大島戌*	愛と生命の灯 (創作)	164	
		編集後記	181	
		北大季刊編集規定	183	
	<b>【第25号】</b> 発行所：北大季刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：林善茂 発行日：1963年12月1日 判・頁：A5・218頁 印刷所：文栄堂 頒価：70円	伊藤秀五郎	知性の辺境にたたずんで	2
		坂上昭一	南十字星のもとで—ブラジルでの研究と生活—	9
			北大季刊原稿募集	20他
館脇操		独壇晩秋譜—ドロミーテンよりチロールへ—	21	
高橋空山		イスラエルと西欧への旅 (四)	39	
岡本剛		ソ連・北欧の旅であった学者たち	57	
阿部保		草の上 (詩歌)	64	
林善茂		晩夏抄 (詩歌)	66	
小川徳人*		自然と共に	67	
川合道雄*		昔の話に他ならぬ (詩歌)	74	
大嶋隆		宗教と政治—殷墟卜辞物語—	76	
		談話室	85他	
伊藤俊夫		折にふれて思う	86	
安倍三史		感ずるままに	90	
井手賁夫		大学における外国語教育	92	

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
	岩沢健蔵	矢内原忠雄先生のおもいで	100
	佐藤正一	学生部と学生運動	112
	布施鉄治	『北海道大学新聞』私論	122
	岡不二太郎	北大の一般教育—その問題の数々—	129
		学部長と学生との対談：山田幸男理学部長・長尾正人農学部長・高畑倉彦獣医学部長・安保寿医学部長	142
	宮原将平	北大を語る	153
	川原直子*	ワンダーフォーゲル日記	166
	熊井徹三*	優秀な学生	172
	菅原邦臣*	迷路	176
		学内の雑誌—そのいろいろ—（「ばいであい」・「麦の会会報」・「アウロラ」・「北海道大学新聞」・「しどうかい」・「楡苑」・「国語国文研究」）	178
	宍戸紀彦*	北大空手部創立十周年を迎えて	184
	牛尾勤*	自然と人間の調和	187
	David J. Michell	THE MESSAGE OF DR.WILLIAM SMITH CLARK FOR TODAY	190
	寺久保友哉	雀斑（創作）	195
		編集後記	216
		北大季刊編集規定	218
<p>【第26号】</p> <p>発行所：北大季刊刊行会                  発行者：岡不二太郎                  編集者：林善茂                  発行日：1964年6月30日                  判・頁：A5・157頁                  印刷所：文栄堂                  頒価：70円</p>	山下太郎	宇宙時代への雄飛（講演）	2
	高桑栄松	常識の科学性—燃焼と空気汚染の問題—	14
		北大季刊原稿募集	21他
	神山桂一	都市のオムツ	22
	館脇操	観光の泣きどころ	28
	永山政一	煤煙問題におもう	37
		談話室	41他
	宮下健三	メーリケの村を訪ねて	42
	松井安信	入学・卒業—シーズンに思うこと	48
	井手賁夫	芝生騒動記	52
	新井三郎*	或る手紙	54
	工藤謙三*	入学の印象	62
	香川洋一*	学生々活と学生運動	64
	都留下根夫*	恵廼の青春	70
	William D. Edly	LOVE FOR MOZART AS AN ANALOGY TO FAITH.	75
	ウィリアム D. エディ (阿波章夫訳)	モーツァルトへの愛—信仰に似た経験として—	78

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
	中里重世	樺太における“瓔珞みがく”の作詞者－佐藤一雄氏のこと－	81
	石原和子*	からすよ	90
	矢島京子	みずうみ (短歌)	97
	阿部保	天からふる雪 (詩)	98
	梶村光男*	かけ橋 (詩)	100
	林真*	T君の発作	102
	栃木捷一郎	恍惚	104
	石綿静子*	船乗りさんのこと	108
	馬場孚瑳江	星ひとつ	110
	松田恵明*	水産学部へ移行する方々へ	114
	川南達也*	北大応援団－或るアンケート報告－	122
	荒木伸也*	おしよろ丸航海記	130
		編集後記	157
		北大編集規定	157
<p><b>【第27号】</b>                      発行所：北大季刊刊行会                      発行者：岡不二太郎                      編集者：林善茂                      発行日：1964年12月31日                      判・頁：A 5・153頁                      印刷所：文栄堂印刷所                      頒価：100円                      特集：前北海道大学々長                      島善鄰先生追悼特集</p>	岡不二太郎	追悼のことば	3
	東克彦	北大ボート部育ての親 島先生を偲ぶ	9
	沢田英吉	在りし日の島先生を偲んで	12
	長野実	島公安委員長を偲ぶ	18
		北大季刊原稿募集	26
	菊地欽弥	島先生 (詩)	27
	三浦四郎	郷土の先輩としての島先生	28
	菊地武直夫	島先生の思い出	30
	渋川伝次郎	追憶	34
	渋川潤一	師恩	37
	斉藤圭助	島君の学生時代を偲ぶ	41
	館脇操	ハイランドの秋	44
	井手賁夫	第一次世界大戦中のヘッセ	53
	大嶋隆	技術と人間－礼儀のはなし－	70
	阿部保	白楊のうた (詩歌)	80
	石綿静子*	ふるさと (詩歌)	82
	林善茂	鬼 (詩歌)	84
	梶村光男	ハワイ便り	86
		談話室	92他
	赤塚公*	詩話二題・その1：観別者<王維>	93
	岡田亜紀良*	詩話二題・その2：過江夜行武昌山聞黃州鼓角<蘇東坡>	96
	土居勝彦*	インターン制度の問題	101
	上原逸*	道南自転車の旅	103

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
	蕨建夫*	旅人の話	112
	栃木捷一郎*	桐生にて	115
	大宮司信*	北大雑感	120
	高橋好洋*	故郷	122
	林善茂	熊から聞いた話	124
	萩山深良*	ひとめぐり（創作）	132
	寺久保友哉	門外（創作）	146
		編集後記	153
		北大季刊編集規定	153
<p>【第28号】</p> <p>発行所：北大季刊刊行会                  発行者：岡不二太郎                  編集者：林善茂                  発行日：1965年6月30日                  判・頁：A 5・169頁                  印刷所：文栄堂印刷所                  特集：学生生活の記録</p>	篠原正三	現代学生気質	1
	森田昭之助	大学生の精神衛生－精神衛生相談医の立場から－	12
		北大季刊原稿募集	21他
	新妻篤	西独の大学と学生－留学の印象から	22
	Hermann Hecker	PÄDAGOGISCHE LEHRJAHRE	28
	工藤俊彦*	北大第二農場	46
	ヘルマン・ヘッカー（小栗浩訳）	私の教育的修業時代	47
		忍従法師徒然草	62他
	ドクトル・ヘルベルト・デイトマン（小栗浩訳）	敬愛するヘッカー先生	65
	阿部保	六月のうた（詩歌）	66
	林善茂	弥勒菩薩（詩歌）	68
	梶村光男	ハワイ便り（二）	69
	籠山京	「期待される人間像」批判	76
	若宮健太郎*	大学の人間像について	80
	出羽弘明*	大学生として考えること	86
	木谷高哲*	山に求めて	92
	酒井康弘*	眇目僻目の藪覗み	98
	岡不二太郎	警官隊出動の経緯	106
	大川宇史*	教養バンザイ－従弟への手紙	118
	井上勝一*	東京のN君へ	122
	上沼昌雄*	「クラーク聖書研究会」と私	125
	時田郁	入院に詠える十首（詩歌）	127
	工藤俊彦*	忍従ものがたり	128
	中山清*	青い実	132

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
	仙波宗*	北大に来て	134
	熊沢教真*	断食療法体験記	137
	上出洋輔*	終列車で (創作)	155
		編集後記	169
		北大季刊編集規定	169
<b>【第29号】</b> 発行所：北大季刊刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：林善茂 発行日：1966年9月15日 判・頁：A 5・149頁 印刷：文栄堂印刷所 頒価：60円	杉野日晴貞・井上修次・岡不二太郎	対談・二十世紀における大学の役割	1
	澤田詮亮	愚見	18
	樋口敬二	試論「北海道学派」	28
	ヘルマン・クーニッシュ (井手貴夫訳)	アーダルベルト・シュティフター—存在の秩序を求めて—	33
		談話室	45他
	Hany Pollock	A WESTERNER WRITES ON FACING DEATH AND DESEASE IN JAPAN.	46
	ハニー・ポラック (高橋宣勝訳)	ある西洋人の記—病気と死と人生の意義	54
	館脇操	アラスカの旅	60
	山根対助	断想—あるいはコトバについて—	68
	阿部保	母の絵 (詩歌)	72
	梶村光男	星空 (詩歌)	74
	岡部賢司*	秋の祈り (詩歌)	76
	林善茂	歌集「熔岩流」村田豊雄著を読んで	78
	梶村光男	ハワイ便り (三)	80
	斎藤新一郎*	山のうた	89
	桑原隆司*	教養部・その良識はどこへ	94
	松田恵明*	“函館寸描”—新寮問題—	100
	高橋清之	東京オリンピックに現れた日本的カルチュア	106
	酒井康弘*	経営者の没落	114
	松田恵明*	増殖学科学学生の“おしょろ丸”乗船実習	126
	池添博彦*	秋の一日	134
	大島戊	数珠	137
		編集後記	149
		北大季刊編集規定	149
	<b>【第30号】</b> 発行所：北大季刊刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：林善茂 発行日：1968年1月15日	須貝新太郎	古市二郎先生
堀内寿郎		一粒の麦	12
滝沢義郎		オパのこと	14
永井一夫		噫 Hecker 先生	19
原俊彦		ヘッカー先生を偲びて	21

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
判・頁：A 5・195頁 印刷所：文栄堂印刷所 頒価：60円 特集：ヘルマン・ヘッカー先生追悼特集	山崎久蔵	ヘルマン・ヘッカー先生の追憶	24
	渡辺左武郎	ヘッカー先生と私ーある教え子の憶い出ー	27
	滝沢迪子	山登りと靴下の穴	30
	滝沢三郎	オバーの思い出	33
	暮目清一郎	敬愛するヘッカー先生	35
		談話室	37他
	矢島武	一粒の麦	38
	小栗浩	教育者ヘッカー先生	42
	長浜文雄	Hermann Hecker 先生	48
	志村達夫	ヘッカー先生	52
	田中行男	ヘッカー先生の思い出	53
	本間慶蔵	忘れ難い日々のこと	56
	星野了介	昭和13年頃のヘッカー先生と予科生	59
	吉武清彦	世界史への開眼	61
	丹治寿太郎	ヘッカー先生の思い出	64
	宮下健三	ヘッカーさんのこと	66
	岡不二太郎	人間性の使徒ヘルマン・ヘッカー先生	71
	青柳謙二	講義のころの思い出	77
	ヘルマン・ヘッカー、(小栗浩訳)	ニーチェの抒情詩	81
	ヒルデ・ヘッカー (滝沢迪子訳)	兄	84
	ウイルヘルム・グンデルト (滝沢迪子訳)	ヘルマン・ヘッカーを偲んで	87
		ヘルマン・ヘッカー先生の略歴	95
	Michiko Takizawa	ERZÄHLEN UND STOPFEM	100
	Wilhelm Gundert	HERMANN HECKER ZUM GEDÄCHTNIS	107
	Hilde Hecker	MEIN BRUDER	110
	Hermann Hecker	NIETZSCHE'S LYRIK	113
	館脇操	ニュー・イングランド雑記	114
	梶村光男	米国本土への旅	130
	下垣徹也	シラキュース大学における印象	143
	斎藤新一郎*	山のうた (二)	151
阿部保	紅薔薇 (詩)	160	
ささきはるか*	白い核 (詩)	162	

号数・書誌情報	執筆者	表題	頁
	蕨建夫*	山嶺の秋 (詩)	164
	山極三郎	“焼いも”とフランシスカン・ファーザ	167
	榎本信能*	バハイ運動について	168
	山根甚信	アンビションという名の指輪	177
	山形半造	遍歴—ある学生の手記—	181
		編集後記	195
		北大季刊編集規定	196
<b>【最終号 (第31号)】</b> 発行所：北大季刊刊行会 発行者：岡不二太郎 編集者：林善茂 発行日：1969年7月25日 判・頁：A 5・126頁 印刷所：文栄堂印刷所 頒価：60円	酒井保	大正ッ子の放言	3
	斎院親康	私の主張	8
	高橋大*	教養十ヶ月	13
		談話室	21他
	山本隆夫*	大学	22
	三谷啓次郎*	“アジ”からの解放	26
	松田恵明*	“くそみそ会”が機能する時—それは北大が北大らしくなる時だ—	29
	飯田広夫	記憶の中の旅	38
	和田淳	みず雑語	41
	山崎文雄	“三兄弟へ”—バンクーバーから	45
	井上貞行	雑感—モントリオールより—	50
	伊藤俊夫	十一月の歌 (詩歌)	54
	阿部保	壮麗なる銀河 (詩歌)	56
	山本聡*	北大に於ける伝統精神とは何か	58
	林善茂	拝仏 (詩歌)	69
	高倉新一郎	白亜講堂の名残り	70
	斎藤新一郎*	山のうた (三)	74
	森本武彦*	アルブレヒト・デューラーの芸術	84
	亀井秀雄	目クソ 鼻クソ—私情の言葉批判—	93
	太田嘉四夫	白鳥事件と私	103
	工藤慶一*	大学と私	106
	瀬戸秀夫*	ミカン	108
	横野直子*	『星のことども 又は駄猫とつぜん英才と化すこと』	110
	早川芳信*	私の問題—ある学生の手紙—	112
	熊沢教真*	大学紛争について	117
	和田謹吾	寂滅雑感	121
	岡不二太郎	終刊に際し	123

注) (1) 各号における執筆者の所属先の記載より、北海道大学学生・大学院生については氏名の後に\*を附した。  
 (2) 原則として、旧字体は新字体に改めた。

## 【 解 題 】

# 総合雑誌『北大季刊』刊行について

出村 文理

### 1. 『北大季刊』刊行の経緯

1951年10月、北海道大学（以下、北大と略す）は教職員と学生との共同編集で学内経費による学生向け総合雑誌『北大季刊』を創刊し、終刊の第31号（1969年7月）までの全31冊を刊行した。

#### (1) 『北大季刊』刊行の背景

戦後の北大は、占領下で全国的な食料不足・あらゆる生活物資の窮乏並びに政治・経済の混乱の中で、法文学部設置及び新制大学への移行により大改組となった（教育学部・水産学部及び結核研究所の新設、予科の廃止並びに一般教養部の設置等）。学生数増加による教室不足、一般教養課程担当教員不足などの課題も生じていた。反戦・平和運動関係の政治闘争とインフレ経済による各種要求のため、学生自治会・教職員組合の各活動が活発化していた。1950年5月にイールズ事件が発生、同事件関係学生の処分が行われた。同事件関係の責任をとって伊藤誠哉学長が辞任、後任に同年10月に島善鄰農学部長が就任した。

島学長はかかる状況下で、学生向け新雑誌刊行が「諸人の所懐を収め、志尚を伝えて、学人の発展と和衷協同に資する」（島善鄰「北大季刊の創刊に寄す」『北大季刊』創刊号、1951年10月）として、新雑誌刊行要請を受け入れた。また同学長は、岡不二太郎講師に学内雑誌が「第二の有島武郎を育ててほしい」と述べられたという（岡不二太郎「『北大季刊』のこと」『北大季刊』第32号、北大学生新聞世話人会、1983年6月）。

印刷用紙は太平洋戦争直前の1940年、戦時体制強化のため政府により統制物資（配給制）指定となった。国立大学を含む官公庁・府道県・各市町村の出版物も同用紙配給制限を受け、1943年以降は全面的に出版物刊行停止となった。印刷用紙の統制物資（配給制）は戦後の1950年に解除となって、国立大学の出版物刊行が可能となった。1951年以降、北大でも研究紀要類が再刊・創刊となった（例えば、1943年刊行停止の『北方文化研究報告』の1952年再刊、『北海道大学文学部紀要』の1952年創刊）。『北大季刊』は印刷用紙の統制物資指定解除により、容易に刊行可能となった。



(2) 「北大評論」(仮称)刊行の要請(1951年2月)

『北大季刊』の創刊は、学内教職員・学生有志による新雑誌刊行要請が評議会で承認されて実現となった。1951年2月、同有志は次の要請文(代表 岡不二太郎・理学部講師・当時)を島善鄰学長に提出、同学長はその要請を受け入れ、同年3月開催の評議会に諮ることとなった。

(別紙・要請文書) 「北大評論」(仮称)刊行の懇請

本学が良き結合を以て学徒の素養を深厚にし、且、その藻思を慈育すべきことは多年の抱負であり、又、責務でもある。いま、その一助として学内に一の機関雑誌を存することが望ましい。その活用は正に努力と期待に酬ゆるものがあると信ずる。

たゞ、その方法を按ずるに文武会<sup>1)</sup>の復活は難く、新設の文化連合会も亦その物的基礎と諸機能の零細のため印刷物経営の力を結集するの見込がない。又、それらの、学生による、自治的経営は必ずしもこの懇請の趣旨に添はない。依って茲に大学当局が学生の啓沃と文章の養育を念願として、学内の精神的諸力を糾合し、一の綜合雑誌を公営することを要望し度い。

即ち試案を設けて各方面の諸意見を訊すに学生の希望は勿論、学内教官の大多数の支持賛同を確信し得たに付き、一部の署名を証示して学長に実施の御配慮を懇請します。

学長、評議員会、並びに各学部が教育と全学精神の協和的發展とにおけるその意義と功用とを確認し、諸困難を排して速かに実現の途を啓かれるよう期待します。

昭和廿六年二月

島学長殿

学内教職員学生有志

(代表者、理学部、岡講師)

なほ

一、添付の賛同署名は本件について当方より照会し、意見を尋ねた略々全員のものである。即ち

教授四十名(各学部<sup>2)</sup>に互る。各学部長、評議員の大半を含む)

助教授、講師二六名(異論、異見を殆ど予想し得ない趣のため以上にて打切り)

署名を辞したる者 教授一名(但、財政的理由、趣意にハ賛成)、助教授一名(思想、政治問題懸念のため。純文芸雑誌なら賛成)、他二教授一名(理由、この種の事不明につき)

二、政治問題、財政問題其の他に就て得た諸意見は別紙の刊行試案に反映せしめ或は註として附記した。

三、実施の上には教職員及び学生の両層に誠実な抱負と協力とを期待しうる現状である。

以上

（別紙・刊行試案）<sup>2)</sup>

### 北大評論（仮称）刊行試案

註、実現の暁、委員会に於て必要の修正、細目の決定をする。

- 一、学長の管理下に 北大評論編輯委員会を設立。
  - 二、委員会は雑誌「北大評論」—仮称—を定期的に発刊、差当り春秋二回、各々一五〇頁内外。 註、現在学内執筆力及編輯余力は大體右の量と推定。
  - 三、発刊の趣旨は学生の専門外教養を推進し、その思考と表現を啓発し、且、文筆的表現の諸努力を奨励するにあり、併せて学内多数の頭脳を反映せしめて諸表現を均衡にする。
  - 四、編輯委員会は学長或は各学部長より推挙された教官（各学部二名位）を教官委員として、及び、依嘱或は募集された学生（各学部適當数）を学生委員として構成、事務官に依嘱しうる。代表者は学長（註、事業の趣旨により）
  - 五、教官委員は編輯の趣旨を監理し、その責任を持つ。  
註、編輯の実務はその内の適當な少数者にて足りる筈。
  - 六、原稿は学内に於て（指名）依頼するの他、学生及び教職員より公募するを原則となす。
  - 七、編輯の方針は知性と志操の真摯な探求とその表現の努力とを尊重するものとし、平和な表現を条件とする。
  - 八、内容の範囲は綜合雑誌の形式となして充實を期し、生活、科学、思想、芸術、宗教に互る諸評論、浪漫、詩歌、隨筆など。
  - 九、印刷その他の経費として年十万円を支出（本部予算）  
註、内容を充実し、読書価値を高く維持することが雑誌を永續せしめる所以であり、右は望ましき最低限と一般に思料せらる。
  - 一〇、販売の形式で頒布  
註、例之、一部二〇—五〇円×五〇〇—一〇〇〇部  
価格は内容と情況によるべく、部数は事業の趣旨と経費の可能による。無償配布は不可能。売上金を原稿薄謝、雜費及び多忙委員の謝礼等にすれば運営円滑となる。
- 註 一、決定を速かに得て今春より実現したいもの（可能と思ふ）。  
二、政治思想の問題は機構の適正化によって憂ふるを要しない。  
三、編輯費十万円は各学部がその学生のため年間一〜二万円を負担したこととなり、□を過重と考へないで欲しい。  
四、編輯費は学□□接、又ハ学生部長が保有。

### (3) 評議会における『北大季刊』刊行決定（1951年3月）

1951年3月10日開催の評議会<sup>3)</sup>において、鳥学長から理学部岡講師を代表とする学内教職員・学生有志から要望の学生向け新雑誌刊行に関する事案を、議題「大学刊行物に関する

る件」として諮った。同学長から上記の要請文及び刊行試案による説明後、審議の結果、その刊行が承認された。

## 2. 『北大季刊』の刊行

### (1) 北海道大学北大季刊刊行会の設立・誌名『北大季刊』及び編集規定の各決定

評議会での総合雑誌刊行承認により、岡助教授らを中心に1951年春から雑誌刊行準備が開始となった。各学部より推薦の編集委員が次のとおり決定した<sup>4)</sup>。

委員長：学長・島善鄰

農学部・高倉新一郎教授、林善茂助教授／医学部・武田勝男教授、高山坦三助教授／工学部・大塚博教授、村田豊雄事務長／理学部・内田亨教授、岡不二太郎助教授／文学部・風巻景次郎教授、野田寿雄助教授／法経学部・伊藤俊夫教授／教養部長・市川純彦教授／本部・佐藤正一学生課長

委員長は学長とし、水産学部（函館キャンパス）からの編集委員推薦の依頼を行わず、札幌キャンパスの各学部の教員と教養部長等で構成した。雑誌名を『北大季刊』に、刊行機関名を〈北海道大学北大季刊刊行会〉に各決定、併せて〈編集規定〉を次のとおりとし、雑誌刊行事務は学生部が担当となった。

一、北大季刊編集委員会<sup>5)</sup>は総合雑誌「北大季刊」を定期的に刊行する。但し当分の間は年二刊、四月及び十月に発行する。

二、「北大季刊」は諸評論および文芸を載せ、特に学生におけるその努力を奨励し、推進するに意を用いる。

原稿は学内において公募ならびに依頼するが、学外者にも執筆を依頼することがある。

三、北大季刊編集委員会は、学長を委員長としその依嘱を下に、教職員および学生の適当数を委員として構成する。

四、編集事務所を北海道大学本部内におく。

この規定は『北大季刊』の最終号（第31号、1969年7月）まで変わらなかった。学生の編集委員が『北大季刊』第2号（1952年4月）から編集委員メンバーに参画、同委員として医学部学生・清野昌一（元国立療養所静岡東病院名誉院長）、文学部学生・千葉宣一（帯広畜産大学名誉教授）、同学部学生・山根对助（北海学園大学名誉教授）が加わった。三名の学生は上記要請文の有志メンバーであり、最初に岡講師に雑誌刊行を提案した学生であった。教員の編集委員は停年又は転出の時点で、適時、後任補充を行い、学生の編集委員は学部移行・卒業又は大学院進学の時点で、新しい学生に交替した。

## (2) 『北大季刊』の創刊（1951年10月）

A 5 判の全138頁の創刊号は、岡助教授を中心に編集、1951年10月に創刊となった。島学長の発刊挨拶文、内田亨・中谷宇吉郎各教授等の学内教員による執筆文を掲載、学生からも多数が応募し、多彩な文章が掲載となった。『北大季刊』の体裁・掲載内容は、最終号（第31号、1969年7月）まで、ほぼ変わらなかった（刊行部数・毎号約500部）。第2号以降は第27号まで年2回のペースで刊行して、頁数が毎号160頁前後、毎号には広告をも掲載し、広告収入を編集経費に充当した。購入希望者に頒布価格を安価（50円～100円）にて販売した。

国立大学が大学経費による出版物を販売する場合は、文部省の許可手続を要した。北大は『北大季刊』を<学生便覧>類のような無償配布出版物類の扱いにしたものと思われる。複数の学部を有する国立大学において、教職員・学生が共同で編集し、大学経費で刊行される総合雑誌は、初めてのものであった。



図1 『北大季刊』創刊号

## (3) 『北大季刊』の主な掲載内容

『北大季刊』は学部を横断した言論・創作の発表の場となったが、政治色の強い内容のものは非掲載とする方針を貫いた。その執筆者は、附置研究所を含む全学部の教職員・全学部の学生に及び、学外執筆者の多くが北大卒業生であった。全31冊の『北大季刊』の掲載内容は、次のようにまとめることが出来る。

- ① 多数の学生による多彩な執筆文・作品が毎号に掲載、それらは格調高い文で綴られ、学生の思考・心情や生活の一端を知ることが出来るものであった。北大OBの可知春於（作家、第2号他）・古屋統（作家、第14号他）をはじめ、北大生の加藤多一（児童文学者、第9号他）・加藤幸子（芥川賞受賞作家、北大時代の筆名：藤木道子、第13号）・千葉宣一（詩人、第2号他）・寺久保友哉（芥川賞候補作家、第24号他）・所雅彦（作家、第10号他）・本山節弥（劇作家・演出家、第2号）並びに札幌医科大学時代の渡辺淳一（直木賞受賞作家、北大入学・札幌医科大学進学者、第19号）の作品や、北大生の匠秀夫（元神奈川県立近代美術館長、第6号）の美術評論が掲載、戦後の北大における活発な文芸活動等を示すものであった。
- ② 札幌農学校・東北帝国大学農科大学を含む北大の歴史関係文・資料が多数掲載、教職員・学生にとって北大の伝統・新事実を知るところとなった（例えば、第5号掲載の高倉新一郎・逢坂信丞「対談 札幌農学校の背骨」等）。
- ③ 北大内外での出来事が当事者により書かれ、その掲載文は学内で反響を呼び、話題となった。（例えば、中谷宇吉郎教授による米軍雪氷関係研究所への協力に対する

批判文と同批判への同教授による見解文〔第7号〕、吉田順五・低温科学研究所長の職員組合批判文〔第11号〕、藤井宏・文学部教授自身による〈いわゆる藤井事件〉の弁明文〔第14号〕、太田嘉四夫「白鳥事件と私」〔第31号〕など。

- ④ 教員による外国紀行文を多く掲載、外国出張・外国旅行が容易でない時期に海外諸国事情を紹介した。また多数の北大関係外国人による母国語文をも掲載した。
- ⑤ 教員による自己研究テーマを分りやすく記述した文やエッセイ並びに北大卒業生による関係文をも多く掲載した。第23号の中谷宇吉郎教授・第30号のヘルマン・ヘッカー講師の各追悼特集は『北大季刊』ならではの企画であった。

なお、明石勝英・札幌医科大学教授の「中共抑留の九年」(第7号掲載)の抄録が、雑誌『文藝春秋』第33巻第9号(1955年5月号)に掲載された。

#### (4) 北大季刊刊行会主催の展示会開催及び関係出版物の刊行(1958年8月～9月)

1958年8月7日～17日の10日間、北大季刊刊行会では同会主催の「内村鑑三・新渡戸稲造展」を、丸善(株)札幌支店画廊において開催、北大附属図書館等の関係資料を中心に展示した。その展示会関係出版物として次のものを編集したが、展示会会期に間に合わず、同年9月刊行となった。

書名：林善茂編『内村鑑三と新渡戸稲造』

発行：北海道大学北大季刊刊行会、1958年9月、新書判(全114頁・写真三葉)、非売品(頒価130円)

目次：杉野目晴貞「序にかえて」、矢内原忠雄「内村鑑三と新渡戸稲造」、南原繁「日本国と基督教」、大内兵衛「内村鑑三の偉さ」、中野好夫「内村先生のこと」、遠山茂樹「内村鑑三に心うたれる理由」、亀井勝一郎「拒絶の精神」、大島正満「内村鑑三「日本産魚類目録」、高岡熊雄「新渡戸先生の追憶」、高倉新一郎「札幌農学校教授新渡戸稲造」、半沢洵「新渡戸先生と遠友夜学校」、石井満「新渡戸先生の思い出」、市河三喜「鑑三・稲造・天心の英文」、高倉新一郎・逢坂信彦「対談 札幌農学校の背骨」<sup>6)</sup>

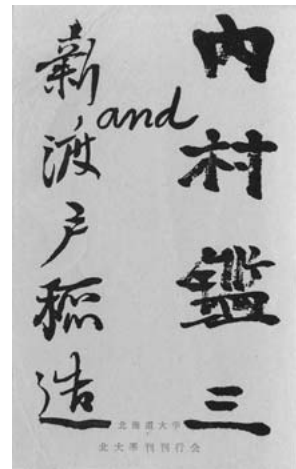


図2 『内村鑑三と新渡戸稲造』<sup>7)</sup>

### 3. 『北大季刊』の終刊(1969年7月)

『北大季刊』は第28号から終刊の第31号まで、年1回の刊行となった。第29号の〈編集後記〉で刊行遅延の理由として編集委員の多忙と学生からの原稿減を記している。1960年

前後から学生達の自己の主張・意見等を述べる雑誌が同人・サークル・各寮によって刊行となった（例えば、学生の同人雑誌『雄たけび』全12冊・1961-1965年）。また、工学部・理学部での学科増設、工業教員養成所・薬学部・歯学部の設置に伴う教員・学生の大幅な増員並びに病院等の学内建物の増築が相次いだ。そして、1965年以降の学内学生自治活動の激化並びに全国的な大学紛争は1969年には北大にも波及した。かかる状況は『北大季刊』創刊時の学内環境とは大きな変化となった。つまり、『北大季刊』は高度成長期の到来までは、学内における発言・発表可能な有力な出版物であったが、大規模化が進行中の学内では、教職員・学生の思想・心情などの多様化により『北大季刊』の存在が薄れていった。

岡教授等の編集委員は、『北大季刊』のあり方等について協議を重ねた結果、『北大季刊』の終刊を決定し、第31号を以て終刊とした。1969年7月発行の最終号は、大学紛争の時期にあたり、事務局・図書館・文系学部の各建物が一部学生集団による封鎖中の刊行となった。『北大季刊』の最終号に和田謹吾文学部教授が「寂滅雑感」と題し、創刊号から最終号までの編集・刊行に献身的尽力をされた岡教授は「終刊に際し」と題して、それぞれ終刊の無念さと惜別の辞を綴った。編者は私見であり確証はないが、『北大季刊』の刊行経費停止があったものと推察している。

『北大季刊』は<教職員向け雑誌>と云われたこともあったが、戦後の北大において教職員と学生が共に学芸の世界を享受した格調高い総合雑誌であった。『北大季刊』については、神谷忠孝（名誉教授）並びに木原直彦氏（文芸評論家）が北海道大学史の観点から論評している（神谷忠孝「北大における文芸活動の史的変遷(3)」『春楡』第5号・北海道大学文芸部・1980年1月、神谷忠孝「『北大季刊』」『北海道文学大事典』北海道新聞社・1985年、木原直彦『北海道文学史 戦後編』北海道新聞社・1982年）。なお、北大関係出版物では、1982年刊行の『北大百年史』通説の<年表>で「『北大季刊』が創刊された」と記載しているのみである。創刊号の刊行から62年を経た『北大季刊』は、今後、北大を考察する上で有力な資（史）料となるであろう。



図3 『北大季刊』最終号

#### 4. 北大学生新聞世話人会による『北大季刊』の復刊（1983-1985年）

北大の学生任意団体<北大学生新聞会>は、1977年から『北大学生新聞』を刊行していた。同新聞会は多くの北大関係者で構成の<北大学生新聞会世話人会>を設立して雑誌刊行を企画、誌名を『北大季刊』として1983年から3冊を刊行した。その刊行号数は、北大季刊刊行会刊行の『北大季刊』の号数を継承した形であった（第32号〔再刊第1号、1983年6月〕、第33号〔1984年4月〕、第34号〔1985年1月〕、以降・未刊）。同新聞会世話人会

による『北大季刊』は多くの北大関係記事を掲載したが、北大季刊刊行会刊行の『北大季刊』の掲載内容とは大きく異なるものであった。

〔注〕

- 1) 文武会は札幌農学校時代の1901年9月に発足、生徒全員が会員の全校的団体、文化活動・運動活動を実施。同会は東北帝国大学農科大学・北海道帝国大学時代に継続し、1941年2月解散した。
- 2) 要請文書・刊行試案は、岡不二太郎「終刊に際し」『北大季刊』第31号（最終号・1969年7月）並びに関係資料による。試案九に記載の「本部」は、現在の北海道大学事務局を指す。なお、資料劣化により解読不能の箇所は□（欠字）とした。
- 3) 当時の評議会は文学・法経学・教育学・理学・医学・工学・農学・水産学の各学部長と各学部選出評議員1～2名で構成。
- 4) 『北大季刊』創刊号（1951年10月、17頁）による。
- 5) 北大季刊編集委員会は〈北海道大学北大季刊刊行会〉を指す。
- 6) 杉野目学長による序文以外は、全て内村・新渡戸関係文献から再録された。高倉「札幌農学校教授新渡戸稲造」と高倉・逢坂の「対談」は、『北大季刊』第5号～第7号掲載からの再録であった。
- 7) 表紙中の〈内村鑑三〉・〈新渡戸稲造〉は各本人の揮毫を用いている。

〔参考文献〕

- ・岡不二太郎「原稿あつめ」『北大季刊』第18号、1960年6月
- ・岡不二太郎「終刊に際し」『北大季刊』第31号、1969年7月
- ・岡不二太郎「『北大季刊』のこと」『北大季刊』第32号、北大学生新聞世話人会発行、1983年6月
- ・神谷忠孝「北大における文芸活動の史的変遷(3)」『春楡』第5号、北海道大学文芸部、1980年1月
- ・神谷忠孝「『北大季刊』」、北海道文学館編『北海道文学大事典』北海道新聞社、1985年
- ・木原直彦『北海道文学史 戦後編』北海道新聞社、1982年
- ・北海道大学編『北大百年史』通説、ぎょうせい、1982年

(でむら ふみただ／元北海道大学工学部事務部長)